

京土会学生会員研修助成基金 活動報告

2023年7月11日～20日にドイツ・ベルリンで開催された、28th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) に参加した。”Vertical quasi-two-dimensional modeling for hillslope surface-subsurface flow”という題目で、卒業研究から取り組んでいる降雨流出モデルの開発についてポスター発表をおこなった。土壌中の水分移動を物理的に解く手法を実用的な計算コストで流域に適用することを目指してプロトタイプモデルを作成した、という発表内容に対し、計算セルの大きさはどれくらいか？、現時点の結果は実用に堪える計算量といえるのか？といった、詳しい検討や改善が必要な点についての重要なご指摘をいただいた。さらに、今後の課題としている流域への展開について楽しみですねと言っていただけるなど、研究の発展につながる非常に有意義な機会となった。また、発表を通じて、他の参加者の理解力の高さや積極的に質問する姿勢に感銘を受けるとともに、自身もそうなれるよう研鑽を積みたいと感じた。

他のセッションを聴講しているなかでは、極端気象やその将来変化など気候変動に関する研究発表の多さが印象的であった。これに加えて、ドイツでの滞在期間中、気温が 30℃を超える日もしばしばあったが、ホテルやレストラン、公共交通機関にも基本的にエアコンが設置されていなかったのは驚きであった。もともとは夏でもエアコンを必要としない気候であったが、近年は熱波の発生頻度が高まっているということであり、思いがけないところで気候変動の影響を身をもって知ることとなった。

学会参加の合間には、現地の水工施設も見学した。右下の写真は、ベルリン市街にあるミューレンドム閘門であり、たまたま船が通過する様子を見ることができた。ベルリン市街を流れる河川は、どれも非常に穏やかな流れであった。また、飛行機からの景色を見ていても、平坦な土地が広がっていることがよくわかり、日本の地形とは大きく異なっていた。このような土地ごとの違いが、自身がテーマとしている降雨流出モデルの研究においても関心の高さや目指すところに影響しているかもしれないということも、今回初めて国外に行き国際会議に参加したことで認識することができた。

最後になりましたが、このたび助成をいただきました京土会の皆様に心より感謝申し上げます。

